

議会広報特別委員会所管事務調査報告書

本委員会に所管事務調査として、閉会中の継続調査に付託された事件について、調査の経過及び結果を次のとおり報告する

平成 18 年 9 月 4 日

上富良野町議会議長 中川 一男 様

議会広報特別委員長 米沢 義英

記

1 調査の経過

議会広報特別委員会は、住民に議会活動を理解いただくための議会広報に関する発行及び調査研究のため、平成 18 年 8 月 21 日から 22 日まで、先進市町村である白老町を視察し、調査を行った。

また、北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会に参加してきた。

2 調査の結果

(1) 先進市町村行政調査

白老町

◎調査テーマ 議会広報の編集について

◎町の概要 人口 20,973人 9,620世帯 (平成18年3月末)

◎調査の概要

- 1 創刊年月日 昭和51年10月20日
- 2 名称 「議会だより しらおい」
- 3 発行回数 原則として年4回(各定例会後、翌月の末日発行)
- 4 発行予算 1,032千円 10,000部発行

・白老町議会の議会広報は昭和51年10月に創刊され、現在116号を発行しており、これまで、全道町村議会広報コンクールにおいて入選5回、特選2回と歴史と実績のある議会広報である。

編集作業については、平成3年から編集委員みずから原稿の要約・編集作業を行なう「議員みずからによる議会だよりづくり」をスタートさせ、平成7年に議会広報特別委員会が設置され7名の委員で編集作業を行っており、議会だより発行まで概ね2回の委員会を開催している。

編集方針としては、①表紙の使命は「読むきっかけづくり」である。との位置付けから

表紙写真に地域住民がより多く登場することを心がける。②見出しとリード文を読んだだけで定例会の概要がつかめるような工夫をし、写真をうまく扱うことで視覚に訴える紙面をつくる。③一般質問の掲載は各議員質問2項目までとする。④常任委員会の活動については十分なスペースをさき、各委員会の動きを伝える。⑤ページに余裕があれば特集記事を掲載する。また、できる限り行政用語を用いず、誰が読んでも理解できる言葉を使うよう心がけていた。

この中で特に、一般質問の掲載方法について、どんなに多くの質問をしても議会だよりに掲載するのは2項目までとしており、項目が多い場合には掲載する項目について質問者と広報委員で調整をするが、その内容の要約については広報委員が行っており、質問は短く答弁は長く、再質問・再々質問は掲載せず詳しくは会議録を見ていただくようにするという手法をとっており、限られたスペースをうまく利用するための方法として大変参考になった。また、他のページでも、見出しの工夫や写真の配置、スペースの活用などにより、読者を飽きさせない工夫がされており、読みやすい紙面づくりを重要視していることが伝わるものであった。

(2) 全道議会広報研修会

北海道町村議会議長会主催の全道議会広報研修会に参加してきた。広報プランナーの和田雅之氏による「議会報づくりの基本と疑問〜いま、社会情勢の急激な変化の中で〜」と題した講演を受けた。

見やすく、親しみやすく、わかりやすい紙面をつくるため、内容については平易な文章、正確な文章そして簡潔な文章であることを心がけ、見出し、余白等のレイアウトについても同時に進めることでよりバランスの取れた紙面をつくることができる。

特に、見出しについて横の見出しは縦の見出しの1.5倍の力があるといわれており、罫線等組み合わせることでより目を引く見出しをつけ、「読まなければ損をする」という感覚を持たせることが、「読まれる広報づくり」のポイントであるとのことであった。

研修会後半では、滝上町の議会だよりを事例とし、具体的に注意すべき点などについて研修を受けた。

まとめ

読みやすく視覚に訴える紙面づくりという点で、見出しの工夫や余白の使い方等白老町の議会広報は大変参考になるものであった。

今後、本町議会においても、「読みやすい紙面づくり」「読んでもらえる紙面づくり」のため、広報委員会が主体となって編集に取り組み、型にとらわれることなく、よいと思うことは積極的に取り入れる姿勢が必要である。また、各種審議経過等の掲載においても事実を客観的に判断し読者の視点で考え、よりわかりやすく伝える工夫をすることが、今後、議会広報を編集するにあたっての検討課題だと考える。